

令和 2 年 6 月 6 日現在

機関番号：12602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K11607

研究課題名(和文)急性冠症候群患者のコントロール感とアウトカムとの関連について日米比較

研究課題名(英文) Comparison of perceived control and outcomes in patients with acute coronary syndrome between Japan and the United States

研究代表者

近藤 暁子 (Kondo, Akiko)

東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授

研究者番号：70555424

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：パイロットスタディでは日本の患者31名と米国の患者10名を対象として分析した。日本の患者の方が米国の患者より平均年齢が高く、教育レベル、身体/社会的機能は高かったが、日本の患者の方がコントロール感は有意に低かった。

日本の3つの病院に入院した患者137名を対象として、基礎情報、不安、倦怠感、コントロール感、健康関連生活の質の関連を分析した。その結果、コントロール感が高い対象者、不安や倦怠感が低い対象者は健康関連生活の質が高かった。年収が高いことが高いコントロール感に関連する要因として最も重要であった。また、入院中に測定されたコントロール感は退院後3ヶ月の健康関連生活に質に有意に関連していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

急性冠症候群の患者について、日本人は米国人に比べると自分の病状をコントロールしているという感覚は著しく低かったが、入院中に測定させたコントロール感と3か月後の健康関連生活の質に正の相関が見られた。病状をコントロールしているという感覚を持つことでさらに健康関連生活の質を高めることができる可能性が示唆された。

研究成果の概要(英文)： The pilot study compared patients with acute coronary syndrome in Japan and the United States. Japanese participants (n=31) were older and educational level was higher than participants in the United States (n=10). Japanese participants' perceived control was significantly lower (effect size was 0.787), although they reported higher physical functioning and social functioning.

The main study explored relationship among demographic factors, depression, anxiety, fatigue, perceived control and health-related quality of life during admission and after discharge. Data were analyzed 137 patients who were admitted to three university hospitals in Japan. As results, higher perceived control, in addition to lower anxiety and fatigue, was significantly related to higher health-related quality of life. Higher income was the most important factor for higher perceived control. Higher perceived control during admission was associated with better health-related quality of life at 3 months.

研究分野：国際看護学

キーワード：急性冠症候群 コントロール感 健康関連生活の質

1. 研究開始当初の背景

心疾患は我が国において悪性新生物に次ぐ第二の死因であり、人口の高齢化とともに死亡数は年々上昇している。中でも冠性心疾患は心疾患による死亡のうち約半数を占めている。冠性心疾患の年齢調整死亡率は低下しているが、東京や大阪などの大都市部での低下率は低い。一方日本人の総コレステロール値は男女とも上昇しており、今後冠性心疾患による罹患率や死亡率の増加が懸念されている。

コントロール感は物事や状況が思うようにできている、あるいはできていないという認知である。海外の多くの研究において、患者がコントロール能力を発揮することは肯定的感情をもたらす、コントロールできているという感情は不安や抑うつを減らすことが示唆されている。しかし、日本では伝統的に「お任せ医療」という概念があり、日本人の患者にとってコントロール感がアウトカムにどのような影響を及ぼしているかは明らかではない。

2. 研究の目的

(1) 日米の急性冠症候群の患者の比較研究の実行可能性を検証する。

(2) 日本の3つの病院に入院した患者を対象として、基礎情報、不安、倦怠感、コントロール感、健康関連生活の質の関連を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 研究デザインは自記式質問紙を使用した横断研究である。日本の1つの大学病院と米国の1つのレベル1トラウマセンターに急性冠症候群で入院した患者を対象とした。調査内容は基礎情報、急性冠症候群の症状、うつ、不安、コントロール感、健康関連生活の質であった。コントロール感には Control Attitudes Scale-Revised (Moser et al., 2009)、健康関連生活の質は Short Form 12 (身体機能、身体的日常役割機能、体の痛み、全体的健康観、活力、社会生活機能、精神的日常役割機能、心の健康)を使用した。

(2) 急性冠症候群の治療のために首都圏の3つの大学病院に入院した患者について、入院中、退院後3および6か月後に前向きに同様の内容の調査を行った。

4. 研究成果

(1) 対象者の平均年齢は日本が 63.9 ± 15.8 歳 ($n=31$)、米国が 53.1 ± 5.7 歳 ($n=10$)であった。日本人対象者の方が教育レベル、身体/社会的機能は高かったが、コントロール感には有意に低かった(合計点: 24.8 対 30.0, $p = 0.004$) (表1)。日本人の対象者は高い身体機能 ($r=0.379$, $P=0.036$)、全体的健康観 ($r=0.448$, $P=0.012$)、身体的側面のサマリースコア ($r=0.388$, $p=0.034$)が高いコントロール感と有意な相関があった。米国の対象者では、低い体の痛み ($r=0.850$, $p=0.002$)、高い全体的健康観($r=0.666$, $p=0.036$)、精神的日常役割機能($r=0.818$, $p=0.004$)が高いコントロール感と有意な相関があった。

日本人の患者は米国の患者よりも相関係数は低かったが、米国の患者と同様にコントロール感と健康関連生活の質に有意な正の相関が見られた。米国の病院では24時間以内の鎮静と短い入院期間のため患者の調査協力を得ることが困難であった。対象とした日米2つの病院で対象者の基礎情報が異なっていたため、今後類似した対象者で調査する必要がある。

(2) 研究期間中168名の患者から研究協力の同意が得られ、欠損値を除いた137名の患者のデータを分析に使用した。平均年齢は62.8 (SD 11.6) 歳で、80.3%が男性であった。

パス解析の結果、高いコントロール感 ($\beta = 0.258$, $p = 0.001$)、低い不安感 ($\beta = -0.226$, $p = 0.009$)、低い倦怠感 ($\beta = -0.231$, $p = 0.010$)が高い健康関連の生活の質(全体的健康観)に関連していた。年収のみがコントロール感と有意に関連していた ($\beta = 0.187$, $p = 0.029$)。性別、年齢、教育は、年収を通じてコントロール感と間接的に関連していた。急性冠症候群の症状の数、うつ、不安、倦怠感にはコントロール感と有意な関連が見られなかったが、健康関連生活の質には特に不安と倦怠感が関連していた (図1)。

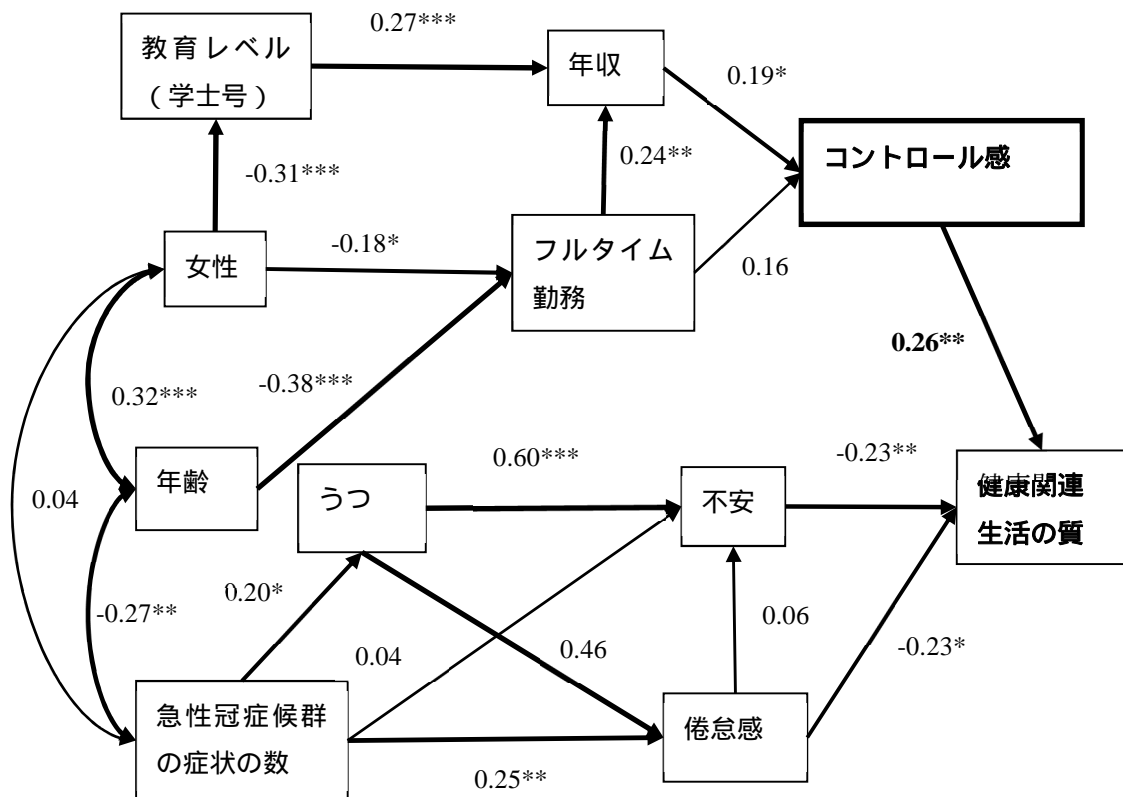
137名の患者のうち、3ヶ月後に82名(59.9%)、6ヶ月後に54名(39.4%)の患者が調査に回答した。コントロール感 ($F = 7.074$, $p = 0.001$) および健康関連生活の質(全体的健康観) ($\chi^2 = 10.22$, $p = 0.006$)は、退院後6か月にわたって有意に上昇していた。急性冠症候群の症状の数、不安、うつ、倦怠感には有意に低下していた。

入院中に測定されたコントロール感は、3か月後の全体的健康感 ($r = 0.239$, $p = 0.035$) と活力 ($r = 0.288$, $p = 0.008$) に有意に関連していた。3か月後のコントロール感、6か月後の身体的日常役割機能 ($r = 0.291$, $p = 0.030$)、全体的健康感 ($r = 0.303$, $p = 0.027$)、精神的日常役割機能 ($r = 0.287$, $p = 0.032$) および精神的側面のサマリースコアに有意に関連していた ($r = 0.284$, $p = 0.034$)。

日本人の急性冠症候群患者のコントロール感、同じスケールを使用して調査した米国(Moser et al., 2009) やレバノンの調査結果(Noureddine, Dumit, & Maatouk, 2019)と比較して退院後の値においても低かったが、健康関連生活の質に関連する重要な要因であった。今後対象者数を増やし、コントロール感の健康関連生活の質の長期的影響について交感神経因子調整して分析する必要がある。また、コントロール感に関連する要因についてさらに探索する必要がある。

表1. 急性冠症候群患者のコントロール感の日米比較

Control Attitudes Scale-Revised, 平均 (SD)	日本人 (n=31)	米国人 (n=10)	P 値
コントロール感総合点	24.8 (4.9)	30.0 (4.0)	0.004
1 もし私が正しいことをすべてやれば、自分の心臓病を上手く管理することができる。	3.4 (1.1)	4.4 (0.5)	0.001
2 私は、心臓病に対処するために、自分自身で多くのことができる。	3.4 (1.1)	4.1 (0.9)	0.061
3 私は自分の生活を上手く管理していれば、心臓病に悩まされることはない。	3.1 (1.1)	3.9 (1.0)	0.053
4 私には自分の症状をかなりコントロールする能力がある。	2.7 (1.1)	2.9 (0.9)	0.681
5 私は何を行っても、どんなに一生懸命頑張っても、自分の症状から解放されそうにない。	3.6 (1.0)	3.3 (1.1)	0.460
6 私は自分の心臓病にうまく対処できている。	2.6 (0.8)	3.8 (0.8)	<0.001
7 私は自分の心臓病に対して、十分コントロールできている。	2.5 (0.7)	3.6 (1.4)	0.026
8 私は自分の心臓病に対して、何もできないと感じている。	3.6 (1.1)	4.1 (1.1)	0.226



*p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

図1 急性冠症候群罹患患者のコントロール感及び健康関連生活の質に関連する要因

<引用文献>

Moser, D. K., Riegel, B., McKinley, S., Doering, L. V., Meischke, H., Heo, S., . . . Dracup, K. (2009). The Control Attitudes Scale-Revised: psychometric evaluation in three groups of patients with cardiac illness. *Nursing Research*, 58(1), 42-51. doi:10.1097/NNR.0b013e3181900ca000006199-200901000-00006 [pii]

Noureddine, S., Dumit, N. Y., & Maatouk, H. (2019). Patients' knowledge and attitudes about myocardial infarction. *Nurs Health Sci*. doi:10.1111/nhs.12642

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Akiko Kondo
2. 発表標題 Comparison of Perceived Control in Patients with Acute Coronary Syndrome in Japan and the US -A Pilot Study-
3. 学会等名 33rd Academic Conference of Japan Association for International Health
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Renaguli Abuliezi
2. 発表標題 The association between perceived control and health related quality of health in Japanese patients after acute coronary syndrome
3. 学会等名 ICN Congress 2019 Singapore (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ann Eckhardt
2. 発表標題 Acute Coronary Syndrome Symptoms in Japan
3. 学会等名 Sigma Theta Tau International, 29th International Nursing Research Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大木 友美 (Oki Tomomi) (60383551)	昭和大学・保健医療学部・准教授 (32622)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大滝 周 (Otaki Amane) (20644579)	昭和大学・保健医療学部・講師 (32622)	
研究分担者	南 雄一郎 (Minami Yuichiro) (20408628)	東京女子医科大学・医学部・助教 (32653)	
研究分担者	吉原 祥子 (Yoshihara Shoko) (80766189)	昭和大学・保健医療学部・講師 (32622)	
研究協力者	えくはどと あん (Eckhardt Ann)	イリノイウェスレヤン大学・School of Nursing・Associate professor	